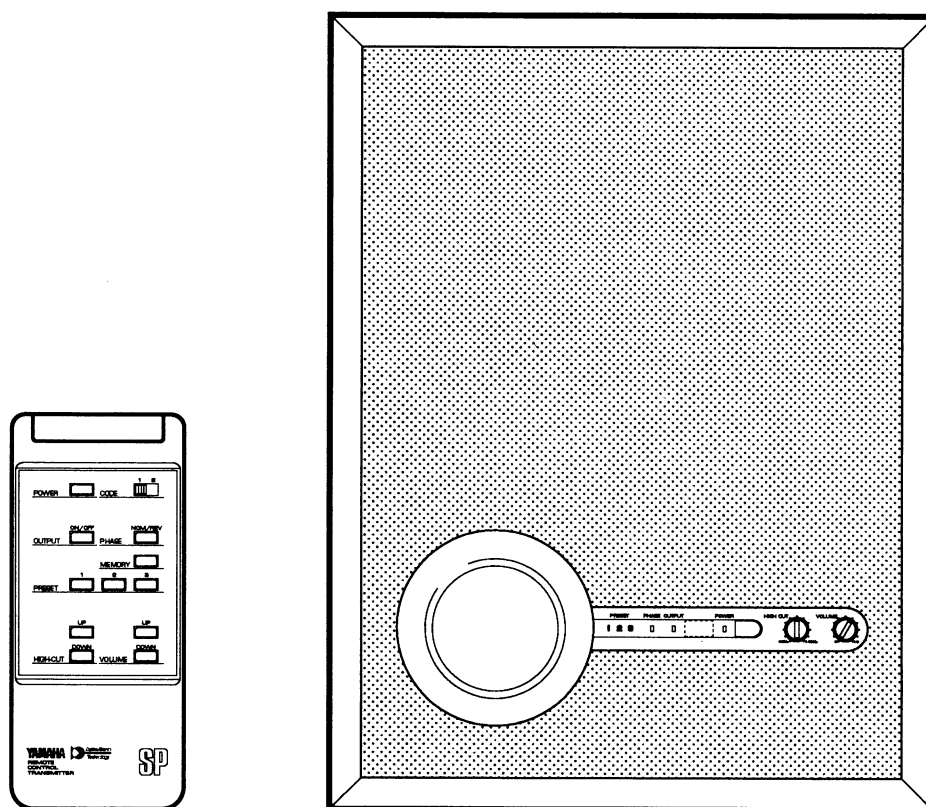


ACTIVE SERVO PROCESSING SUPER WOOFER SYSTEM

YST-SW500

取扱説明書



このたびは、ヤマハ アクティブ サーボ プロセッシング スーパーウーファー システムYST-SW500をお買い求めいただきまして、誠にありがとうございます。

YST-SW500の性能を十分に発揮させると共に、末永くご愛用いただくため、ご使用前にこの取扱説明書を必ずお読みください。お読みになった後は保証書と共に大切に保管してください。

YAMAHA

目次

特長.....1	音量バランスの調節方法.....11
ご使用上の注意.....1	周波数特性図.....13
設置について.....2	故障かなと思ったら.....14
接続のしかた.....3	参考仕様.....15
各部の名称とはたらき.....7	ヤマハホットラインサービスネットワーク.....15
リモコンについて.....9	

特長

YST-SW500は、ヤマハのオーディオ技術を駆使して開発された、アクティブサーボテクノロジーを使ったスーパーウーファーシステムです。オーディオシステムの低音域の補強用としてご利用いただけます。

接続方法は、スピーカー端子入力とピンジャックによるライン入力の2通りがあり、お持ちのオーディオシステムに簡単に組み合わせることができますので、YST-SW500の迫力ある低音域再生を手軽に体感できます。

アクティブサーボテクノロジーとは

アクティブサーボテクノロジースピーカーシステムは、スピーカーのボイスコイルの電気抵抗を打ち消す働きを

するアンプと、ポート内の空気を共鳴させて低音域を再生するエンクロージャー（ヘルムホルツの共鳴箱）との組み合わせによる全く新しいスピーカーシステムです。

ポート内の空気を共鳴させて低い音を出すには、大きな力が必要になります。そのためにはスピーカーの駆動力や制動力を強くすれば良いわけですが、この駆動力や制動力はボイスコイルの電気抵抗で制限されます。YST-SW500に内蔵されているアンプは、従来のアンプとは異なり、ボイスコイルの抵抗分を打ち消すことができます。したがってポート内の空気を十分に共鳴させることができ、良質でパワフルな低音域の再生が可能となります。

ご使用上の注意



電源コードは大切にお取り扱いください。特にコンセントからはずすときは、必ずプラグを持って抜いてください。本機は日本国内用につくられています。定格電源電圧AC100V、50/60Hzでご使用ください。この電圧以外でのご使用は保証できかねます。また、外国で使用することはできません。



キャビネットを美しく保つため、キャビネットに水気やアルコール、ベンジン、シンナー、殺虫剤などをかけたり、ビニール系の敷物類をのせないようご注意ください。色がはげたり張り付いたりします。なお、お手入れは必ず柔らかい布でからぶきするようにしてください。



キャビネットの変色・変形を防ぐため、直射日光の当たる所や湿気の多い場所でのご使用は避けてください。



設置場所は、転倒などの事故が発生しないしっかりと安定した場所を選んでください。音質的にも有利です。



本機は超低音域を再生しますので、レコードプレーヤーなどがハウリング（音の悪循環）を起すことがあります。ハウリングの起らない場所に設置してください。



本機は防磁設計となっていますが、万一テレビ近くでご使用になり色ムラが生じたときは、テレビと本機の距離を離してご使用ください。



本機にはYST用のポート（正面左下の穴）が設けてあります。ポートには絶対に手や物を入れないでください。また移動する際、ポートに手を掛けしないでください。故障の原因になります。



本機およびアンプの損傷を防止するため、接続の際は、必ず本機および接続する機器の電源を切ってください。



本機を移動する場合は、電源プラグを抜き、すべての接続コードをはずしてください。



本機はアンプを内蔵しており、背面に放熱板が設けてあります。設置の際放熱効果を妨げないよう、壁より少し離し、カバーなどはしないでください。



長期間使用しない場合は、電源プラグを抜いてください。



購入時には必ず保証書の手続きを行ってください。保証書に販売店名、購入日などの記入が無いと、保証期間中でも万一サービスの必要がある場合、有償となることがありますのでご注意ください。



この取扱説明書は、保証書と共に大切に保管してください。

これは電子機械工業会「音のエチケット」キャンペーンのシンボルマークです。

音を楽しむエチケット

楽しい音楽も時と場所によっては大変気になるものです。隣近所への配慮を充分にしましょう。静かな夜間には小さな音でもよく通り、特に低音は床や壁などを伝わりやすく、思わぬところに迷惑をかけてしまいます。適当な音量を心がけ、窓を閉めたり、ヘッドホンをご使用になるのも一つの方法です。音楽はみんなで楽しむもの、お互い一心を配り快適な生活環境を守りましょう。

設置について

超低音域は...

音楽信号の超低音域成分は、波長が長いので、人間の耳ではあまり方向感覚がなく、無指向性に近い特性になります。したがって超低音域ではステレオ感も無くなるため、スーパーウーファーは1台でも超低音域再生の効果は得られます。しかし、より一層の臨場感を得るためには2台設置されることをおすすめします。

設置するときは...

センタースピーカーと並べたり、部屋のすみなどに置くこともできます。他のスピーカー同様十分な強度のあるしっかりした床に設置してください。床と隙間ができて不安定な場合は、市販のコルクやゴムの板をスペーサーとして入れてください。

最適な設置場所は...

スーパーウーファー1台使用の場合は、メインスピーカーの左右どちらか、2台使用する場合は両方のすぐ外側に設置すると良いでしょう。

メインスピーカーの内側にセットしてもかまいませんが、ステレオイメージを考えると外側に設置されることをおすすめします。

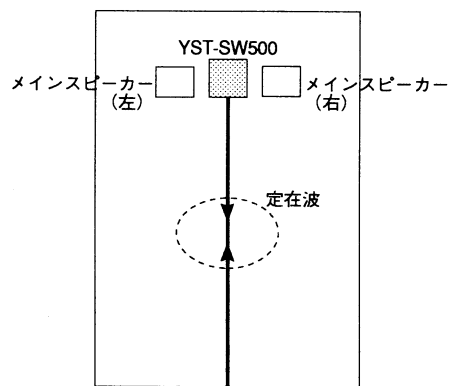
セッティング時の向きは...

図Aのように正面に向けてセッティングすると、壁で反射した音が、スピーカーからでてきた音とぶつかり、打ち消し合ってしまう聞こえにくいことがあります。これは部屋の中のできる定在波の影響です。

これを避けるためには、斜めにセットすると効果的です。(図B、図C)

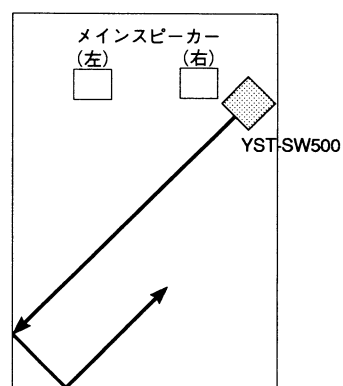
設置上の注意...

- 本機は縦・横どちら向きでも設置できます。ただし、本体前面および背面を下にして設置はできません。
- ポート(本体前面左下の穴)は絶対にふさがらないでください。
- 本体背面は放熱のため、空間をあけてください。特に壁の近くに設置される場合は注意してください。
- 家具や窓ガラスは共振することがあります。共振する場合は、厚手のカーテンなどで吸音するようにしてください。
- 本機の超低音域再生の振動で、周囲に迷惑がかからないように心掛けてください。



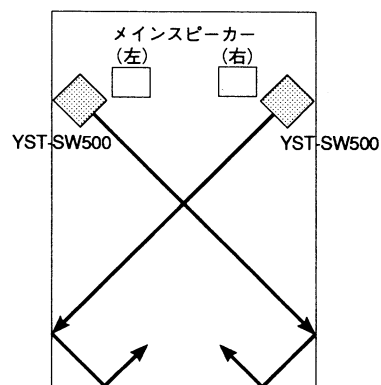
図A

定在波の影響で低音が聞きにくくなる。



図B

YST-SW500 1台使用時の設置例。



図C

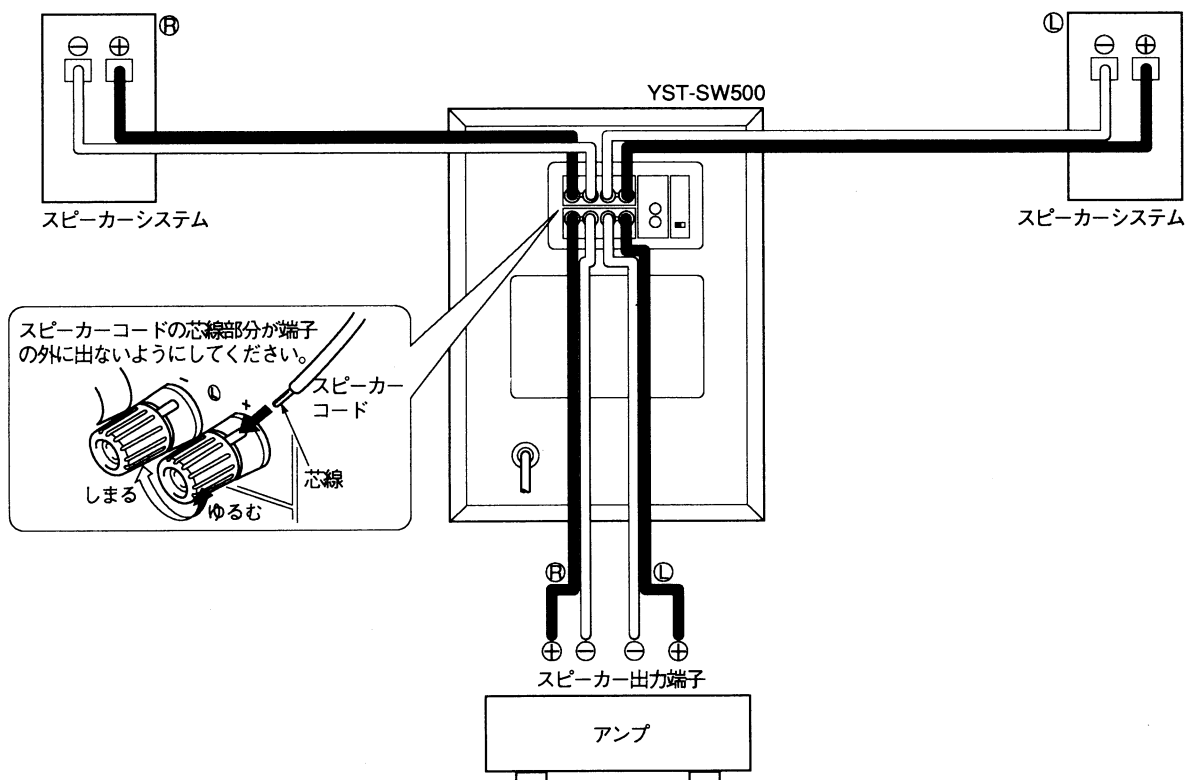
YST-SW500 2台使用時の設置例。

接続のしかた

- 各機器の電源を切ってから接続を行ってください。
- スピーカー端子の接続では、左 (L) チャンネル (向かって左側)、右 (R) チャンネル (向かって右側) および極性 (+、-) を間違えないようにしてください。極性を間違えると、不自然な音になるばかりでなく、故障の原因ともなりますので注意してください。
- 本機に付属のスピーカーコードは、本機とアンプとを接続するためのコードです。お手持ちのスピーカーシステムを接続するコードは本機には付属していませんので別にご用意ください。

■スピーカー出力を使用する場合

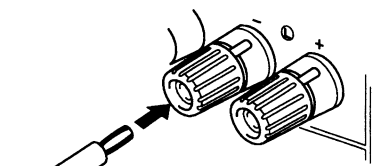
●本機を1台で使用する場合



① アンプのスピーカー出力端子と本機のスピーカー入力端子 (INPUT1) を付属のスピーカーコードで接続します。

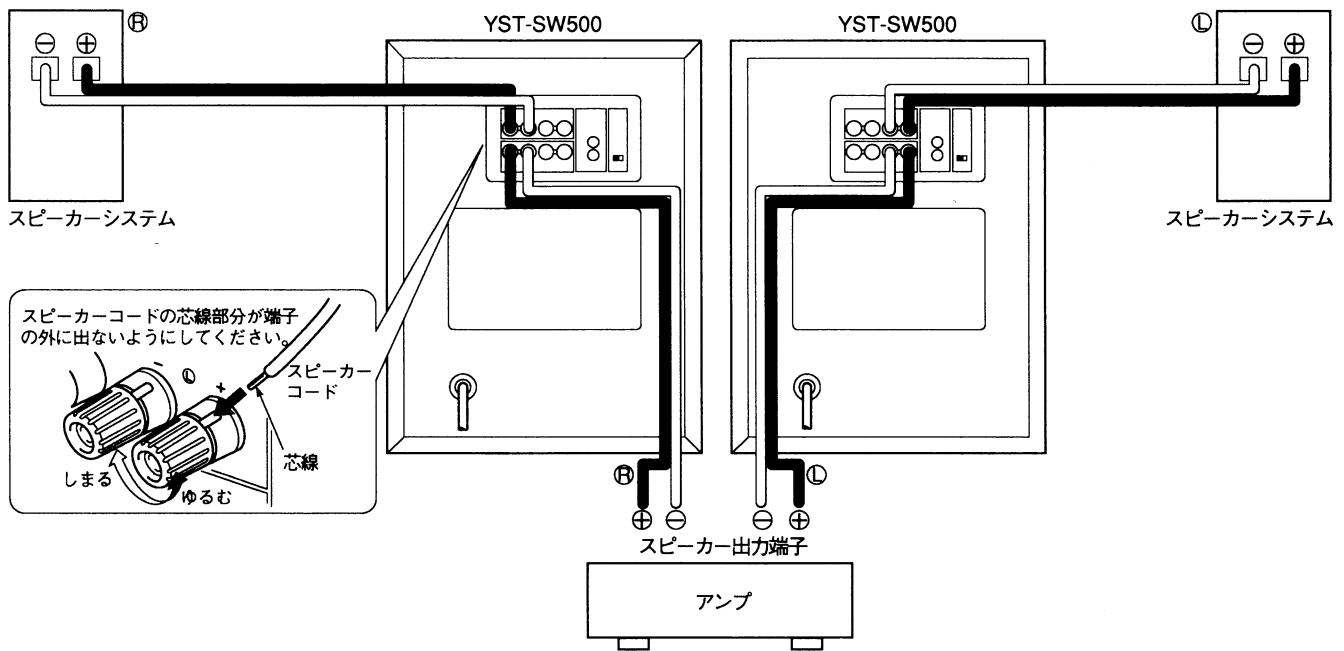
② お手持ちのスピーカーシステムを本機のスピーカー出力端子 (OUTPUT) に接続します。

※ 確実にスピーカーコードが接続されたか、コードを軽く引っ張って抜けないことを確認します。



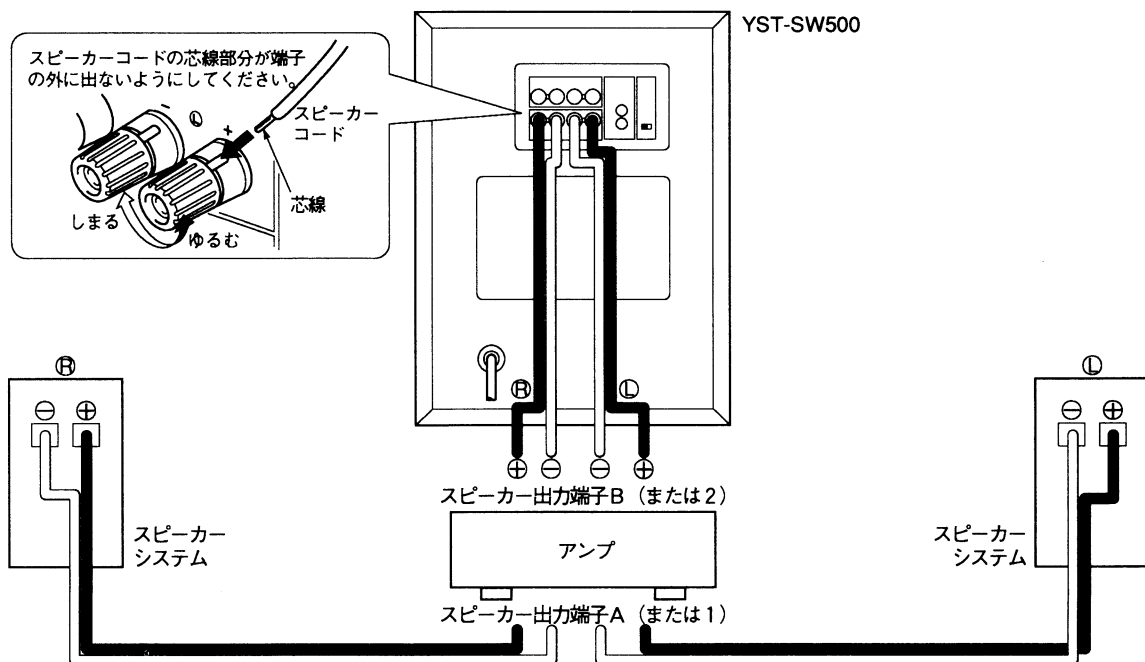
市販のバナナプラグを使って接続する場合は、端子を強く締めてから差し込んでください。

●本機を2台使用する場合



- ① アンプの左チャンネル (L) スピーカー出力端子と1台目のYST-SW500の左チャンネル (L) スピーカー入力端子 (INPUT1) を付属のスピーカーコードで接続します。
 - ② アンプの右チャンネル (R) スピーカー出力端子と2台目のYST-SW500の右チャンネル (R) スピーカー入力端子 (INPUT1) を付属のスピーカーコードで接続します。
 - ③ お手持ちのスピーカーシステムの左チャンネル側 (L) を①で接続したYST-SW500の左チャンネル (L) スピーカー出力端子 (OUTPUT) に接続します。
 - ④ お手持ちのスピーカーシステムの右チャンネル側 (R) を②で接続したYST-SW500の右チャンネル (R) スピーカー出力端子 (OUTPUT) に接続します。
- ※ 確実にスピーカーコードが接続されたか、コードを軽く引っ張って抜けないことを確認します。

アンプにスピーカー出力が2系統 (A+B) がある場合



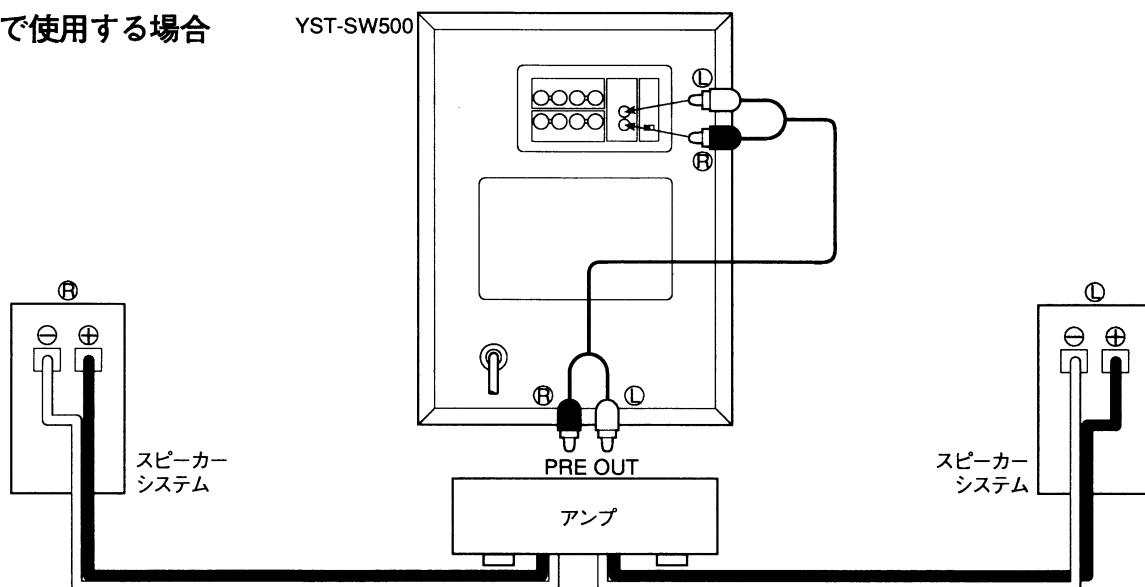
- ① お手持ちのスピーカーシステムをアンプのスピーカー出力端子A (または1) に接続します。
 - ② アンプのスピーカー出力端子B (または2) と本機のスピーカー入力端子 (INPUT1) を付属のスピーカーコードで接続します。
- ※ 確実にスピーカーコードが接続されたか、コードを軽く引っ張って抜けないことを確認します。

■PRE OUT端子を使用する場合

PRE OUT端子を使用する場合は、PRE OUT端子が2系統あるアンプをご使用ください。

PRE OUT端子が1系統しかない場合、左右のスピーカーから音を出すことができなくなります。

●本機を1台で使用する場合

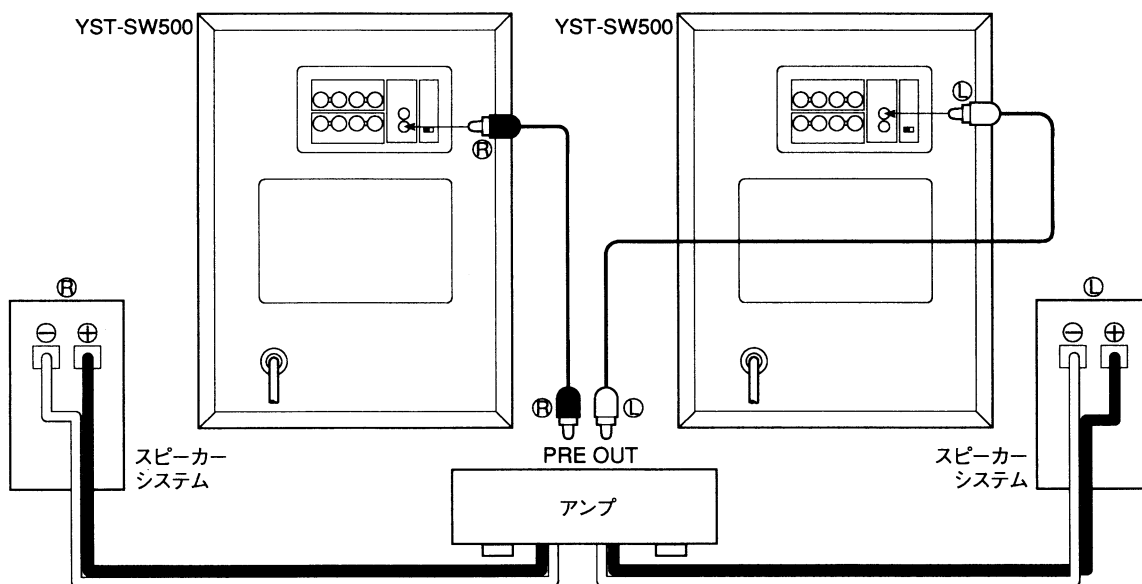


- ① アンプのPRE OUT端子と本機のライン入力端子 (INPUT2) をピンコード (別売) で接続します。
※左 (L)、右 (R) に注意してください。
- ② お手持ちのスピーカーシステムは、そのままアンプのスピーカー出力端子に接続しておきます。

※ アンプのライン出力がモノラル信号の場合は、ライン入力端子 (INPUT2) の左 (L) または右 (R) どちらか片方に接続してください。

※ 本機の電源をOFFの状態でお手持ちのスピーカーシステムのみを再生する場合、左右のチャンネルセパレーションが若干悪くなる場合があります。

●本機を2台使用する場合



- ① アンプのPRE OUT端子と本機のライン入力端子 (INPUT2) をピンコード (別売) で接続します。左 (L) を1台に接続し、右 (R) をもう1台に接続します。
- ② お手持ちのスピーカーシステムは、そのままアンプのスピーカー出力端子に接続しておきます。

本機は、アンプのREC OUT端子やテレビなどのLINE OUT端子と接続することもできますが、その場合、本機の音量をアンプ、テレビなどの音量調節に連動させて調節することはできません。

※ アンプのREC OUT端子に接続したとき、アンプにREC OUTセレクターがあるときは、REC OUTセレクターを再生するソースに合わせて切り換えてください。アンプの操作方法については、アンプの取扱説明書をご覧ください。

※ 本機のスピーカー出力端子 (OUTPUT) は、スピーカー中継用のものであって、ライン入力 (INPUT2) から入力された信号が出力される端子ではありません。


■電源コードの接続

電源コードの接続はすべての接続の最後に行ってください。

本機の電源コードをアンプのAC OUTLETまたは壁のコンセントに差し込みます。

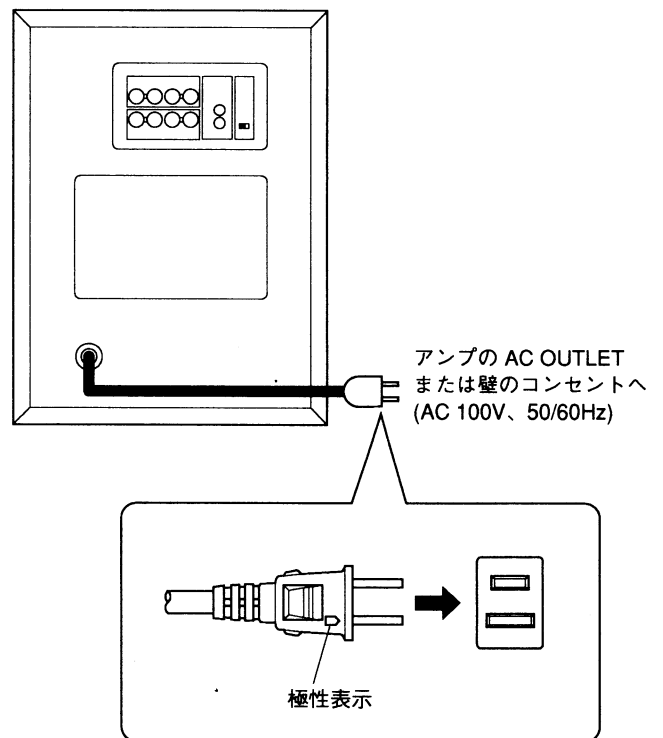
アンプのAC OUTLETに接続される場合は、SWITCHED (電源スイッチ連動)に接続すると、アンプの電源スイッチに連動して本機のON/OFFが行えます。

※アンプのAC OUTLETを使用する場合、消費電力に注意してください。本機の消費電力は100Wです。

※接続の際はプラグの“”マーク側をコンセントの長い方の穴に合わせて差し込んでください。

これは電源の極性を合わせるためです。極性を合わせなくても使用上は影響ありませんが、より良い音質を得るためには、極性を合わせておかれることをおすすめします。

本機は供給される電源 (AC100V) が切れても設定されている状態 (POWER、OUTPUT、PHASE、PRESET) は、約2週間記憶されているため、再び通電されたとき、電源が切れる前に設定した状態になります。



各部の名称とはたらき

■前面

① 電源スイッチ/インジケータ (POWER)

スイッチを押すたびに電源がON/OFFします。
電源がONになるとインジケータが点灯し、
OFFになると消灯します。

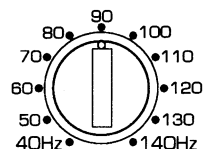
② プリセットインジケータ (PRESET)

プリセットプログラムを選択している場合、
選択したプリセットの番号が点灯します。

③ ハイカット周波数調節ツマミ (HIGH CUT)

カットする高域の周波数を調節するツマミです。
ツマミはコインまたはリモコンのハイカット周
波数調節ボタン④ (HIGH-CUT) で動かします。
右一杯に回すと、140Hzより高い周波数の音を
カットし、左一杯では、40Hzより高い周波数の
音をカットします。好みに合わせて調節します。

1目盛は10Hzきざ
みになっています。



ポート
超低音域を再生します。

④ フェーズ PHASEインジケータ

位相 (PHASE) がノーマル (正相) のとき赤
色に点灯し、リバース (逆相) のとき緑色に
点灯します。

位相の切り換えは、リモコンのフェーズ切換
スイッチ⑥で行います。

⑤ アウトプット OUTPUTインジケータ

出力スイッチがONのとき点灯し、音が出ます。
OFFのときは消灯し、音は出ません。
出力のON/OFFはリモコンで行います。

⑥ リモコン受光部

⑦ 音量調節ツマミ (VOLUME)

本機の音量を調節するツマミです。右に回す
と本機の音量が大きくなり、左に回すと小さ
くなります。ツマミはコインまたはリモコン
の音量調節ボタン⑧ (VOLUME) で動かしま
す。

ご注意

ポート (本体正面左下の穴) に手や物を入れな
いように注意してください。また本機を移動する
ときに手などは掛けないでください。ポートに損傷
を与えますと、音質劣化につながります。

■背面

⑧ スピーカー出力端子 (OUTPUT) ^{アウトプット}

アンプのスピーカー出力を使用して接続するとき、お手持ちの左右のスピーカーシステムを接続する端子です。

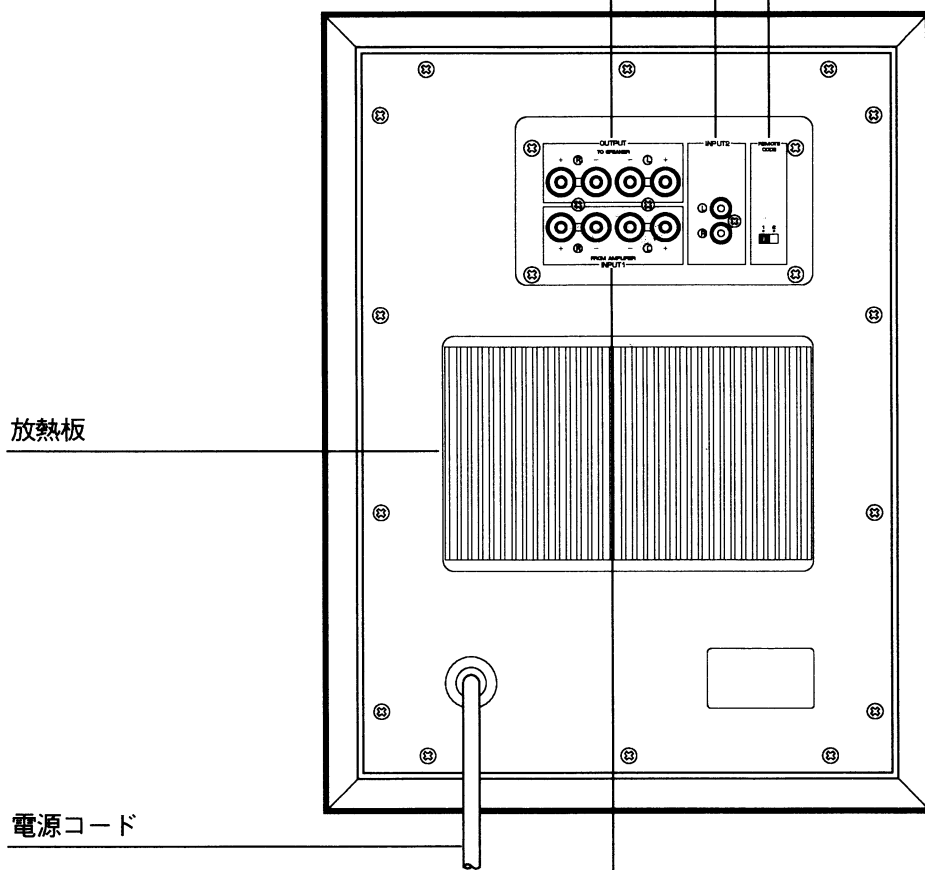
※ 本端子はスピーカー中継用のものであり、本機に入力された信号が出力される端子ではありません。

⑩ ライン入力端子 (INPUT2) ^{インプット2}

アンプのライン出力を使用して接続するとき、アンプのPRE OUT端子と接続する端子です。

⑪ リモートコード切換スイッチ (REMOTE CODE) ^{リモートコード}

リモコンのコード切換スイッチ (CODE) と同じ番号に合わせます。



⑨ スピーカー入力端子 (INPUT1) ^{インプット1}

アンプのスピーカー出力を使用して接続するとき、アンプのスピーカー出力端子と接続する端子です。

リモコンについて

① 電源スイッチ (POWER)

押すたびに電源がON/OFFします。電源が入っているときは、本体前面のPOWERインジケータ①が点灯します。

② 出力スイッチ (OUTPUT)

押すたびに本機の出力がON/OFFします。ONのときは本体前面のOUTPUTインジケータ⑤が点灯します。OFFのときはインジケータが消え、音が出なくなります。11ページ「出力スイッチについて」参照。

③ プリセットボタン (PRESET)

ハイカット周波数、音量、フェーズを調節した結果を各ボタンにひとつずつプリセット（記憶）することができます。

④ ハイカット周波数調節ボタン (HIGH CUT)

カットする高域の周波数を調節するボタンです。ボタンを押すと、本体前面のハイカット周波数調節つまみ③が動きます。UPを押すとつまみが右に回り、ハイカット周波数が高くなります。DOWNを押すと左に回り、ハイカット周波数が低くなります。(操作中は、本体前面のPOWERインジケータが点滅します。)

⑤ コード切換スイッチ (CODE)

リモコン送信信号のコード（形式）を切り換えます。本体背面のリモートコード切換スイッチ⑪ (REMOTE CODE) に合わせ、このスイッチの番号を切り換えてください。YST-SW500を2台使用するときは、それぞれを別のコードに設定してください。1台ずつ独立して操作が可能です。

⑥ フェーズ切換スイッチ (PHASE)

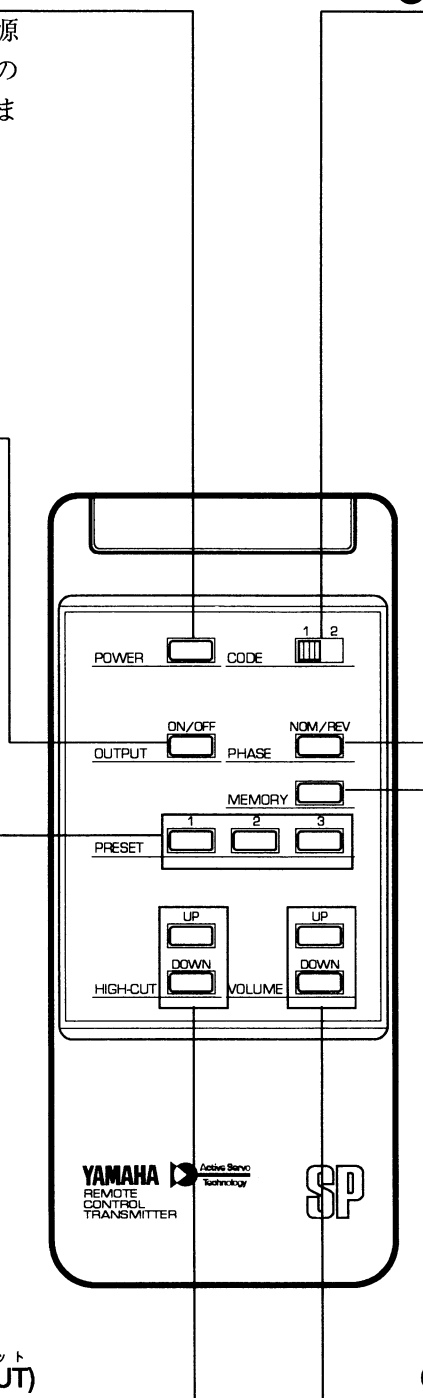
押すたびに位相 (PHASE) がノーマル (正相) とリバース (逆相) に切り換わります。ノーマルのときは本体前面のPHASEインジケータ④が赤色に点灯し、リバースのときは緑色に点灯します。

⑦ メモリーボタン (MEMORY)

ハイカット周波数、音量、フェーズなど調節した結果をプリセットボタン③ (PRESET) にプリセットするとき使用します。

⑧ 音量調節ボタン (VOLUME)

本機と組み合わせるスピーカーとの音量バランスを調節するボタンです。ボタンを押すと、本体前面の音量調節つまみ⑦が動きます。UPを押すとつまみが右に回り、本機の音が大きくなり、DOWNを押すと左に回り、本機の音量は小さくなります。(操作中は、本体前面のPOWERインジケータが点滅します。)



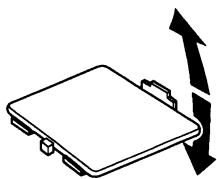
■リモコンコードについて

本機のリモコンは、2種類の送信信号を使い分けできます。

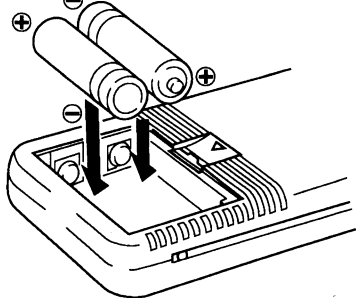
YST-SW500を2台使用するときには、本体背面のリモートコード切換スイッチ (REMOTE CODE) ⑩をそれぞれ別々に設定してください。リモコンのコード切換スイッチ (CODE) ⑤を切り換えることによって1台ずつ独立して操作が可能です。

■電池の入れかた

① ふたをはずします。



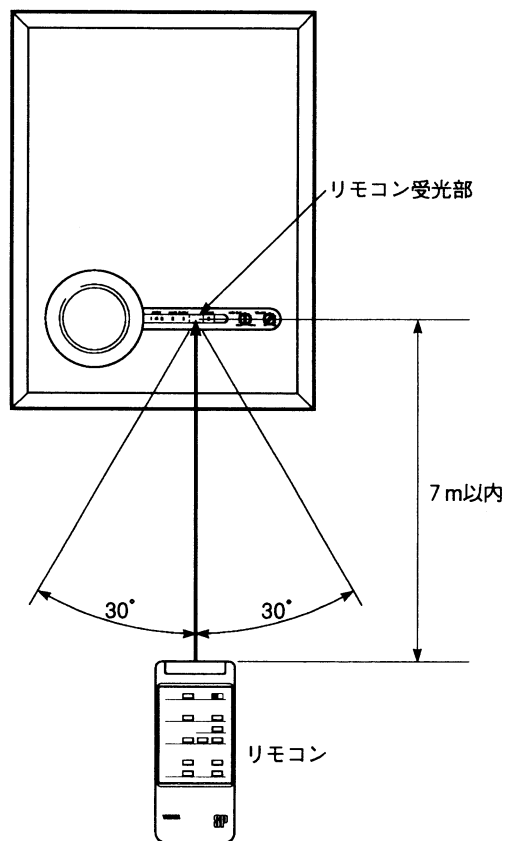
② 電池SUM-3型 (単3) 2個を、⊕⊖の向きを合わせて正しく入れます。



③ 電池交換がすんだらカチッと音がするまでしめます。

■リモコンの使用範囲について

リモコンは直進性の強い赤外線を使っています。本体前面のリモコン受光部に向けて正しく操作してください。受光部を覆ったり、リモコンと受光部に障害物があると動作しません。また、受光部に強い光が当たると、誤動作することがありますので、注意してください。



■乾電池の交換時期

操作できる距離が短くなってきたら、電池が消耗しています。早めに2本とも新しい乾電池と交換してください。

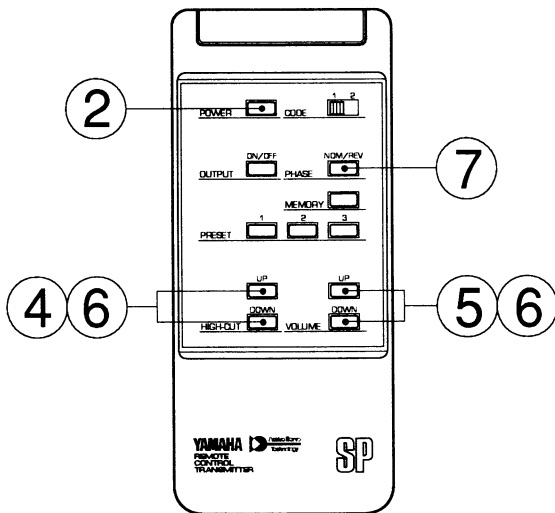
■乾電池についてのご注意

- プラス (+) とマイナス (-) の向きを、リモコンの乾電池ケースの表示通りに入れてください。
- 新しい乾電池と一度使用した乾電池を混ぜて使用しないでください。
- 種類の違う乾電池を混ぜて使用しないでください。同じ形状でも性能の異なるものがあります。
- 乾電池には充電式とそうでないものがあります。乾電池の注意表示をよく見てご使用ください。
- 長い間リモコンを使わないときは、乾電池を取り出しておいてください。
- 分解や加熱をしたり、火の中に入れてたりしないでください。万一液漏れが起きたときは、乾電池ケースや電極についた液をよく拭き取ってから、新しい乾電池を入れてください。

音量バランスの調節方法

効果的に低音を出すためには、メインスピーカーとスーパーウーファーの音が自然につながるように調節しなくてはなりません。下記の手順にしたがってメインスピーカーと本機のバランスを調節してください。

調節はリモコンを使用し、リスニングポジションで行ってください。



- ① アンプの音量を最小にし、アンプおよび各機器の電源を入れます。
- ② リモコンの電源スイッチ(POWER)を押し、本機の電源を入れます。
- ③ ソースを再生し、左右のスピーカーから出る音量をアンプで調節します。(トーンコントロールなどは、一旦フラットにしてください。)
- ④ ハイカット周波数(HIGH-CUT)を組み合わせるメインスピーカーの最低限界周波数(再生可能な最も低い周波数)の付近になるように調節します。
- ⑤ 音量調節ボタン(VOLUME)のUP側を押して本機の音量を少しずつ上げていき、スーパーウーファーが無いときよりも少し低音が出るくらいにします。

この状態でほぼ自然な鳴り方になっています。さらに、好みに合わせ、

- ⑥ ハイカット周波数および音量を調節します。
- ⑦ リモコンのフェーズ切換スイッチ(PHASE)を押し、位相をノーマルとリバーズに何度か切り換え、好みの音になる方を選びます。調節には13ページの「周波数特性図」も参考にしてください。

一度バランスを調節しておく、次からはアンプの音量調節だけで、全体の音量を調節できます。

※ REC OUTやLINE OUTを使って接続された場合は、左右のスピーカーの音量をアンプで調節し、その音量に合わせて本機の音量を調節します。

■出力スイッチについて

リモコンの出力スイッチ(OUTPUT)は、押すたびに本機出力がON/OFFします。出力がONのときは、本体前面のOUTPUTインジケーターが点灯し、音が出ます。OFFのときはインジケーターは消え音は出ません。

ニュース放送などはOFFにすると、低音が強調されずONのときよりも聞きやすくなることがあります。好みに合わせて切り換えてください。

※電源スイッチをONにしたときは、常に出力はONの状態になります。

■フェーズ切換スイッチ(PHASE)について

フェーズ切換スイッチ(PHASE)は、メインスピーカーに対して、正相につながるか逆相につながかを切り換えるスイッチです。

フェーズ(位相)極性は、本体前面のPHASEインジケーターが赤色に点灯しているときがノーマル(標準)ですが、組み合わせるスピーカーや設置場所またはリスニングポジションによっては、緑色に点灯するリバーズ(逆相)の方が低音域再生が良好になる場合があります。

フェーズはあくまで聴感的なもので、再生するソースなどによっても異なります。リスニングポジションで音を聞きながら、フェーズ切換スイッチ(PHASE)を押し、位相をノーマルとリバーズに何度か切り換えてみて、最も好ましい低音域再生になる方を選んでください。

※フェーズ切換スイッチ(PHASE)の設定は、本機の電源スイッチまたは供給される電源を切っても記憶されています。

ご注意

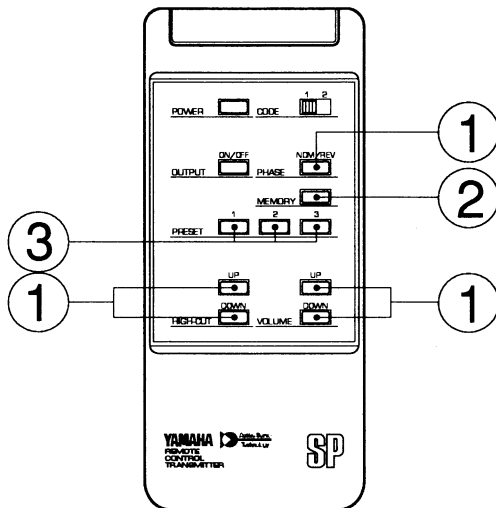
アンプのコントロール(BASS、TREBLEなど)やイコライザーを最大にして大出力でご使用になったり、市販のテストディスクなどに入っている20Hz~50Hzのサイン波や特殊な音(電子楽器の低音、レコードプレーヤーの針先のショック音、低音が異常に強調された音など)を連続して大出力で加えることは、スピーカーの破損の原因となりますので絶対に行わないでください。

また、低音が異常に強調された特殊なディスクでは、本来の音以外に異音を発生する場合があります。これは、スピーカーユニット自信の限界を越えた“バタ付き”現象で故障ではありません。そのようなときは、音量を下げてご使用ください。

プリセットについて

本機では、ハイカット周波数、音量、位相（PHASE）の調節した結果を3つまでプリセット（記憶）することができます。プリセットはリモコンで行います。

■プリセットのしかた

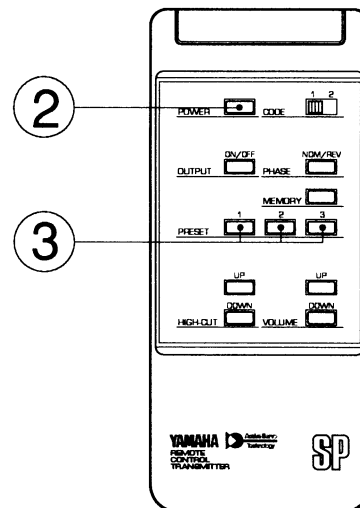


- ① ハイカット周波数、音量、位相（PHASE）を好みの状態に調節します。
- ② メモリーボタン（MEMORY）を押します。
- ③ プリセットしたい番号のプリセットボタン（PRESET）を押します。

※すでにプリセットされている番号に再度プリセットすると、元の内容は消えて新しい内容に変わります。

※一度プリセットした情報は、電源スイッチを切っても記憶されています。

■呼び出し方



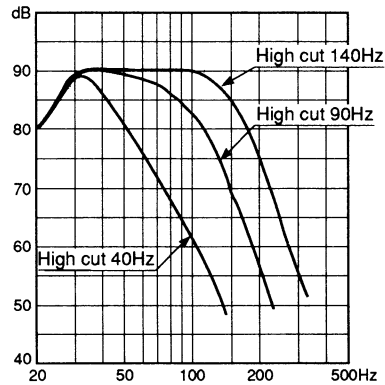
- ① アンプの音量を最小にし、アンプおよび各機器の電源を入れます。
- ② 電源スイッチ（POWER）を押し、本機の電源を入れます。
- ③ 呼び出したい番号のプリセットボタン（PRESET）を押します。
本体のハイカット周波数つまみ（HIGH-CUT）および音量調節つまみ（VOLUME）が設定ポイントまでの動作中は、プリセットインジケータが点滅状態になり、動作が完了した時点で点灯に切り換わります。また、動作中は、他のプリセットボタンは受け付けません。
- ④ ソースを再生し、アンプで音量を調節します。

周波数特性図

ハイカット周波数、音量、位相 (PHASE) 調節は、組み合わせるスピーカーシステムや設置状態、リスニングポジション、再生するソース、好みの音のバランスなどの条件によって異なります。

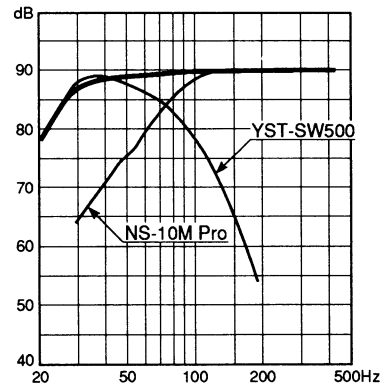
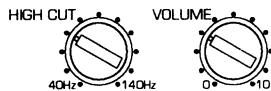
次に示す図は、弊社の代表的なスピーカーシステムと組み合わせた場合の各ツマミの調節位置と、そのときの音圧周波数特性です。図を参考にお手持ちのスピーカーシステムとの調節を行ってください。

●YST-SW500の音圧周波数特性



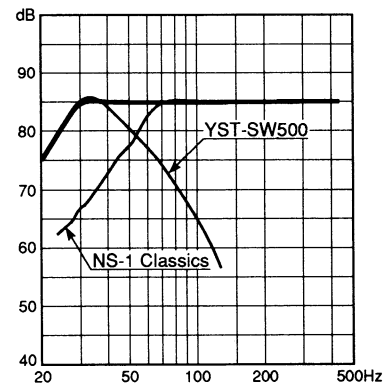
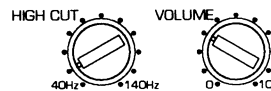
●NS-10M PROとの組み合わせ

フェーズ (位相) 極性はリバース (PHASEインジケータが緑色に点灯) の状態および各調節つまみは下記の状態で測定したときの特性図です。



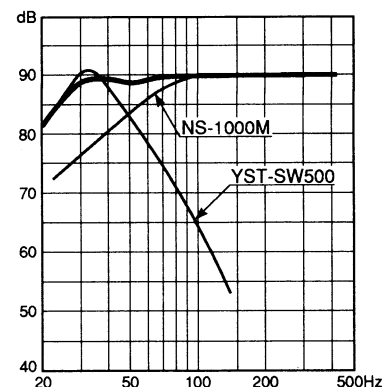
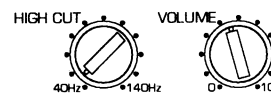
●NS-1 Classicsとの組み合わせ

フェーズ (位相) 極性はリバース (PHASEインジケータが緑色に点灯) の状態および各調節つまみは下記の状態で測定したときの特性図です。



●NS-1000Mとの組み合わせ

フェーズ (位相) 極性はリバース (PHASEインジケータが緑色に点灯) の状態および各調節つまみは下記の状態で測定したときの特性図です。



故障かなと思ったら

本機をご使用中に正常に動作しなくなったときは、下記の事項をご確認ください。

そのうえで正常に動作しないとき、あるいは下記以外で何か異常が認められる場合は、本機の電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いて、お買い上げ店または最寄りのヤマハ電気音響製品アフターサービス拠点に、お問い合わせ、サービスをご依頼ください。

どんな状態ですか	ここをチェックしてください	こうすればOKです
電源が入らない。	電源プラグの接続が不完全。	電源プラグを差し込みなおす。
音が出ない。	音量調節ツマミが最小（左一杯）になっている。	ツマミを右に回すか、リモコンの音量調節ボタンのUPを押し、音量を上げる。
	出力スイッチ（OUTPUT）がOFFになっている。	出力スイッチ（OUTPUT）を押し、ONにする。（OUTPUTインジケータ点灯）
	スピーカーコードの接続が不完全。	接続を確認する。 バナナプラグつきコードを使用しているときは、スピーカー端子が一杯までしめ込んであるか確認する。
音が小さい。	スピーカーコードの接続が逆相になっている。	L、R、+、-の接続を確認する。
	フェーズ（位相）極性の選択が適切でない。	フェーズ切換スイッチ（PHASE）で極性を切り換える。
	低音域が少ないソースを再生している。	・低音域の入っているソースを再生する。 ・ハイカット周波数を高くする。 （ツマミを右に回す）
	定在波の影響を受けている。	設置位置やリスニングポジションを変えてみる。
リモコンで操作できない。	乾電池が消耗している。	乾電池を2本とも交換する。
	リモコン操作可能範囲からはずれている。	本体のリモコン受光部に対して7m以内、角度30度以内の範囲で操作する。
	リモコンコードの設定がリモコンと本体で違っている。	本体背面のリモートコード切換スイッチと同じ番号にリモコンのコード切換スイッチを合わせる。

参考仕様

タイプ.....	アクティブ サーボ プロセッシング タイプ スーパーウーファー
スピーカーユニット.....	25cm防磁型コーンウーファー (JA2540) ×1
アンプ出力.....	120W / 5Ω (0.1% T.H.D.)
再生周波数帯域.....	20Hz～160Hz (-10dB)
ハイカットフィルター.....	40Hz～140Hz連続可変 (-24dB/oct.)
定格電源電圧.....	AC100V、50/60Hz
定格消費電力.....	100W
キャビネット.....	スウェード調塩ビ化粧仕上げ
外形寸法 (幅×高さ×奥行き).....	330×440×380mm (本体キャビネット部)
重量.....	22kg
付属品.....	リモコン×1、単3乾電池 (SUM-3) ×2、スピーカーコード (4m) ×2

・仕様および外観は改良のため、予告なく変更することがあります。

ヤマハホットラインサービスネットワーク

ヤマハ ホットライン サービス ネットワークは、本機を末永く、安心してご愛用頂けるためのものです。サービスのご依頼、お問い合わせは、お買い上げ店、またはお近くのサービス拠点にご連絡ください。

●保証期間

お買い上げ日より1年間です。

●保証期間中の修理

保証書の記載内容に基づいて修理いたします。詳しくは保証書をご覧ください。

●保証期間経過後の修理

修理によって製品の機能が維持できる場合には、お客様のご要望により有料にて修理いたします。

●補修用性能部品の最低保有期間

補修用性能部品の最低保有期間は、製造切り後8年です。この期間は通商産業省の指導によるものです。

補修用性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。

●製品の状態は詳しく

サービスをご依頼なさるときは、製品の状態をできるだけ詳しくお知らせください。また**製品の品名、製造番号**などもあわせてお知らせください。※品名、製造番号は本機背面パネルに表示してあります。

●修理可能な範囲はスピーカーユニットなど振動系と電気部品です。尚、修理はスピーカーユニット交換となりますのでエイジングの差による音色の違いが出る場合があります。

■ヤマハ電気音響製品サービス拠点

(ヤマハAV製品の故障に関するご相談窓口および修理受付、修理品お預かり窓口)

北海道	〒064 札幌市中央区南十条西1-1-50 ヤマハセンター内 TEL(011)513-5036
仙台	〒983 仙台市若林区卸町5-7 仙台卸商共同配送センター3F TEL(022)236-0249
新潟	〒950 新潟市万代1-4-8 シルバーホールビル2F TEL(025)243-4321
東京	〒101 東京都千代田区神田駿河台3-4 龍名館ビル TEL(03)3255-2241
首都圏	〒211 川崎市中原区木月1184 TEL(044)434-3100
浜松	〒435 浜松市上西町911 ヤマハ機宮竹工場内 TEL(053)465-1158
名古屋	〒454 名古屋市中川区玉川町2-1-2 ヤマハ機名古屋流通センター3F TEL(052)652-2230
大阪	〒565 吹田市新戸屋下1-16 ヤマハ機千里丘センター内 TEL(06)877-5262
神戸	〒650 神戸市中央区元町2-7-3 ヤマハ機神戸店内 TEL(078)321-1195
四国	〒760 高松市丸亀町8-7 ヤマハ機高松店内 TEL(0878)22-3045
広島	〒731-01 広島市安佐南区西原2-27-39 TEL(082)874-3787
九州	〒812 福岡市博多区博多駅前2-11-4 TEL(092)472-2134

■お客様ご相談窓口

(ヤマハAV製品に対するお問合せ窓口)

東京	〒101 東京都千代田区神田駿河台3-4 龍名館ビル4F 東京事業所 TEL(03)3255-5691 TEL(03)3255-6767
名古屋	〒460 名古屋市中区錦一丁目18-28 名古屋営業所 TEL(052)232-5740
大阪	〒556 大阪市浪速区難波中1-13-17 なんば辻本ニッセイビル 大阪事業所 TEL(06)647-6411
本社	〒430 浜松市中沢町10-1 AV機器事業部 お客様ご相談センター TEL(053)460-3409

ヤマハ株式会社

〒430 浜松市中沢町10-1

AV機器事業部

営業部

TEL.(053)460-3451

品質保証室

TEL.(053)460-3405

住所および電話番号は変更になる場合があります。